

授業科目名： 外国史Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：根占 献一 担当形態：単独
実務内容 (実務家教員の場合)			
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・外国史		
<p>「学位授与の方針」との関係</p> <p>星槎大学は、「人を認める、人を排除しない、仲間を作る」という三つの約束のもと、「人と人、そして人と自然とが共生する社会の創造に貢献する」を教育理念としています。共生科学部は、この三つの約束、教育理念に基づき、「21世紀を創造する広く深い知の涵養」「共生する心の耕作」「課題探究能力の育成」「インクルージョン教育に基づいた社会実践を担い、社会変革を目指す人材の養成」を教育目的とし、以下の「星槎共生スピリット」を身に付けたものに学位を授与します。</p> <p>A. 共生社会創造のために、教育、福祉、環境、国際関係、スポーツ身体表現の専門的知識を生かし、狭い専門領域を越えて統合しようとする意志を持つこと。</p> <p>B. 問題が生起する現場において、専門知や統合知を使い、解決のために実践しようとする気概を持つこと。</p> <p>C. 共感理解教育の理念を認識し、実践すること。</p> <p>D. 多様な人々や生命に対して、他者を認め、他者を排除せず、仲間を作るという星槎の三つの約束の精神に則って、共生社会の創造に貢献する姿勢を身につけていること。</p> <p>E. 個人や社会にとって必要な課題の解決のため、自律的な課題探究能力を身につけていること。</p> <p>F. 共生社会創造の目的のために、絶えず学び続ける意欲を持つこと。</p>			
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>高等学校地理歴史科の教員を目指す者が、ヨーロッパ史と日本を含むアジア史間の交流史の視点を重視して、世界史に関わる歴史的知見の獲得を目指す。</p> <p>① 世界史における文化・思想・宗教の大きな流れをつかんだうえで、人類は孤立することなく影響を及ぼしたり、あるいは影響を受けてきたりした歴史的事項を知るようになること。</p> <p>② これを受けて、特に世界史のなかで所謂「地理上の発見」または「大航海時代」と呼ばれる時代にヨーロッパ・キリスト教世界が拡大し、日本を含むアジア、さらにはアメリカ大陸と新たな交流の歴史が始まり、現在に至っていることを理解できるようになること。</p> <p>このような歴史的展望のもとに現代の諸問題が把握できるようになることを目指す。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>世界史のなかの特にヨーロッパ近代の画期を成すルネサンスと宗教改革の時代から、グローバリゼーションの歴史が開始される。ヨーロッパ側の歴史的発展を辿りながら、広く「世界史」が成立し、東西間に新たな政治的、思想的、宗教的交流が生まれた経緯を概観する。</p>			

授業計画

- 第1回：ヨーロッパ世界とは何か。
- 第2回：古代・中世のヨーロッパ文化
- 第3回：イタリアの歴史とルネサンス
- 第4回：ヒューマニズム（人文主義）文化
- 第5回：近代思想・芸術の誕生とその意義
- 第6回：北欧と宗教改革
- 第7回：キリスト教社会の分裂と教義の展開
- 第8回：カトリック世界の成立と対抗宗教改革
- 第9回：地理上の発見から大航海時代へ
- 第10回：新たな大陸の登場とヨーロッパの発見
- 第11回：伝統ある大陸の確認とヨーロッパの接触
- 第12回：イエズス会とアジア・日本
- 第13回：世界を知り、ルネサンス文化を知る天正遣欧使節一行
- 第14回：新知識・新技術による知的拡大
- 第15回：世界史成立とその後

定期試験

教科書

- (1) 根占献一『イタリアルネサンスとアジア日本』知泉書館、2017年

参考文献

- (1) ヒロ・ヒライ監修『ルネサンス・バロックのブックガイド』工作舎、2019年
- (2) 草光俊雄・甚野尚志『ヨーロッパの歴史 I』（放送大学、NHK出版、2013年）
- (3) 伊川健二『世界史のなかの天正遣欧使節』（吉川弘文館）

学生に対する評価

レポート評価（50%）、科目修得試験（50%）の割合で総合して評価する。